

「仙台版防災教育副読本を活用した指導事例」

<b>学校名</b> [ 仙台市立高砂中学校 ] [ 中 ] <b>学校</b> [ 29 ] <b>年版</b> <b>単元名</b> [ 地域の一員として ] P50～51 <b>教科・領域名</b> [ 総合 ] [ 時間 50分 ]	
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
<p><b>【ねらい】</b>                  自分たちの暮らす地域にはどのような防災組織があり、震災時どんな対策がとられていたのかを知る。そのうえで震災を経験した自分たちが、今後起こり得る様々な災害時にできることを考える。</p> <p>*「広域の支援」→「地域の支援」→「自分たちができること」の順で身近なことについて考えられるように。</p> <p><b>1 世界の支援を知る。</b></p> <p>(1) 震災時、仙台市には日本全国だけでなく世界からもたくさんの支援がありました。どのような支援があったのでしょうか。(ワークシート1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(生徒の答) 世界 - 軍の派遣、資金の援助、メッセージ 全国 - 自衛隊、消防、警察、ガス会社などの集結 など</li> <li>*たくさんの支援を頂いたことを思い出し、感謝する姿勢を。</li> </ul> <p><b>2 地域の支援を知る。</b></p> <p>(2) 災害発生初期は多方面から支援が届くのは難しいです。そんなとき誰が地域を守っていたのか「防災副読本」P50①②を読んでみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*仙台市内では町内会を母体とする「自主防災組織」が作られている。SBL(地域防災リーダー)がこの地域にもいること、災害時中学生が地域で期待されていることを確認する。</li> </ul> <p><b>3 中学生ができることを考える。</b></p> <p>(3) 「防災副読本」P51③を見ましょう。仙台市内の中学生がそれぞれの地域で行っていることはどんなことがありますか。</p> <p>*中学が各地区で地域に貢献していることを確認する。</p> <p>(4) 中学生として災害時にこの地域のために何ができるか、考えていきましょう。「防災ノート」P27①を読みましょう。</p> <p>(5) 災害時に地域の一員として中学生が(ア)「できること」「(イ)「しなければならないこと」「(ウ)「ころがけること」を考えてみましょう。(ワークシート2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*各班ごとにわかれ、各班長の司会をして話し合いを進める。</li> <li>・付箋に自分の考えを書く。</li> <li>・自分の考えを発表しながら班の模造紙に貼る。</li> <li>・班でそれぞれの考えをまとめ、要点を書きながら集約する。</li> </ul> <p>(6) P33「後輩へのメッセージ」を読みましょう。防災に関して後輩へ伝えたいことはどんなことですか。「後輩への防災メッセージ」を書きましょう。(後輩への防災メッセージ)</p> <p>*後輩へ思いをつなぐことが今「できること」のひとつであることを伝える。</p>	<p><b>【準備物】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災副読本</li> <li>・高砂中学校防災ノート・ワークシート</li> <li>・「後輩への防災メッセージ」</li> <li>・班活動用 (模造紙、付箋、カラーペン)</li> </ul> <p>グループのまとめ</p>   <p>発表の様子</p>   <p>後輩への防災メッセージ</p>   <p>掲示「後輩への防災メッセージ」</p>  <ul style="list-style-type: none"> <li>・震災をはっきり覚えている人はそう多くない。しかし少しでも覚えている人は結構いるはず。だからこそひとり一人の少しの記憶を重ね合わせひとつの記憶として残すことが必要になってくる。(中略)震災の記憶を大切に将来につなげたいと思います。</li> <li>・私は被災時に多くの方々々に助けて頂きました。つぎにどんな災害がどこで起こるかわかりません。しかし、助けて頂いた私たちはその恩を返す義務があると思います。直接的関わりがなくても私達はいろいろな方々にお世話になった先輩をもった後輩であり、たくさんのすべきことがあることを忘れてはならない。</li> <li>・私達はたくさんの方々からの支援を受けたから今があります。そのことを決して忘れることなく、感謝しながら日々の生活を送って下さい。期待しています。</li> <li>・震災時私は小学校3年生でしたが、ほとんどの生徒が泣き崩れていました。でも、私の隣の席だった子は泣いていましたが、それでもみんなに「大丈夫だよ」と声をかけ続けていました。その声にどれだけ助けられたかわかりません。不安でどうしようもないときにも大丈夫という言葉があれば少しでも気持ちは楽になります。もし、避難所になったら不安がっている子どもなどに声をかけてあげることが私達にできることだと思います。(中略)もし大きな災害があったらそういうところでこそ「高中魂」を発揮させるべきだと思います。</li> </ul>